

環保研だより

Vol.14
2009. 9

なぜ野生生物の保護が必要なの！

地球上の様々な動植物は、お互いに結びつきバランスを保ちながら生きています。野生生物の減少や絶滅は、生態系への影響だけでなく、私たちが豊かな自然環境から受けるさまざまな恵みも失うおそれがあります。豊かな生活を確保するためには、希少野生生物を保護して、生物の多様性（生き物のにぎわい）を保全するための取り組みが必要です。私たち一人ひとりが、自然との共生について考え、日常の身近なところから自然にやさしい行動をとりましょう。



環境保健研究センターで見られる
香川県の指定希少野生生物

カンカケイニラ

(絶滅危惧Ⅰ類)

小豆島の寒霞渓にのみ分布する。小型の多年草で、葉は線形、扁平で厚く肉質である。7月～9月に開花し、花被片は白～淡紅色。県固有種。

絶滅危険性の要因は、特産種としての採取行為や岩石採掘などによる生育地の消失による。

小豆島の寒霞渓周辺の集塊岩地帯は、地形や土壌の上から、生物の生息にとって極めて特殊であり、カンカケイニラやショウドシマレンギョウといった小豆島独特の貴重な植物が生育しています。これらの種は生息地の森林開発や植生の遷移などにより生息数が減少しており、希少野生生物のうち特に保護を図る必要があると認められるものとして、いずれも「香川県希少野生生物の保護に関する条例」の指定希少野生生物に指定されています。

当研究センターでは、県民の目に触れる機会の少ない希少野生生物の栽培・展示により、保護増殖に取り組むとともに、野生生物保護にかかる意識啓発を行っています。また、平成20年度からカンカケイニラの保護と増殖のための生態調査及び人工増殖栽培試験を実施しています。人工増殖成功後は、遺伝子レベルの解析を行い現地に自生するタイプとの同一性を確認した上で寒霞渓へ移植し、自然増殖を図ることとしています。

指定希少野生生物に指定されている植物6種（カンカケイニラ、ウンラン、アサザ、オニバス、ミセバヤ、ショウドシマレンギョウ）動物2種（ニッポンバラタナゴ、ヤハタマイマイ）は、生きている個体を捕獲、採取、殺傷又は損傷することが原則禁止されています。



ショウドシマレンギョウ

(絶滅危惧Ⅱ類)



ミセバヤ

(絶滅危惧Ⅰ類)

9月はオゾン層保護対策推進月間です。

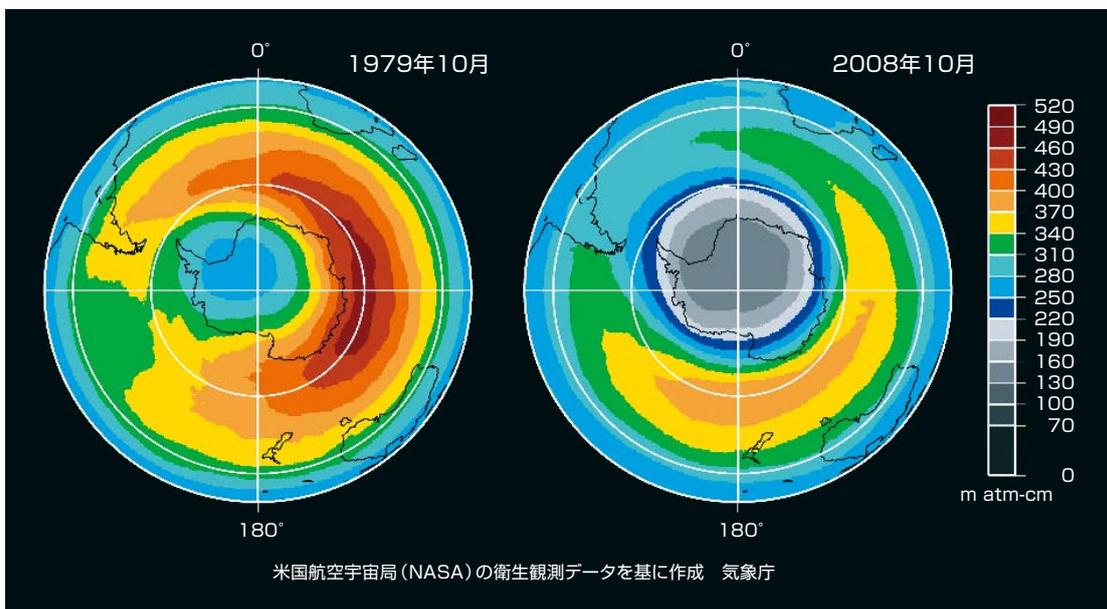
オゾン (O₃) は、地表から約10～50km上空の成層圏に多く存在しており、このオゾンが多く集まる層のことをオゾン層と呼びます。このオゾン層は、太陽光に含まれる有害な紫外線の大部分を吸収し、地球上の生物を守るバリアとなっています。このことにより生物は、海から陸地に上陸することができ、現在の多種多様な動植物の生活が守られています。

しかし、**フロンなどのオゾン層破壊物質**によってオゾン層の破壊が進んでおり、南極上空では、毎年9～10月頃にオゾンホール（オゾンの濃度が極端に減った状態）が観測されています。

オゾン層破壊の原因は、フロンガス

フロンは、炭素、フッ素、塩素、水素等の化合物の総称です。化学的に安定した性質を持つため電子部品などの洗浄剤、冷蔵庫やエアコンの冷媒など様々な用途に使われていましたが、フロンに含まれる塩素原子がオゾン層を破壊することが明らかとなり、1987年にモントリオール議定書が制定され、オゾン層破壊物質の全廃スケジュールが設定されました。

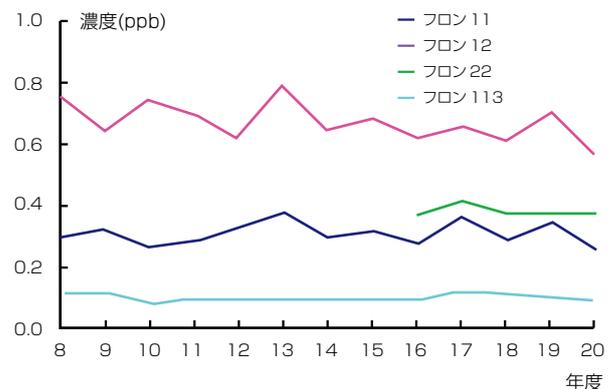
フロンは15年から20年をかけて成層圏に達するため、これまで放出されたフロンが今後、継続してオゾン層を破壊し続ける状況にあります。



当研究センターでは、オゾン層を破壊する作用の強いCFC（クロロフルオロカーボン）等の大気中濃度を測定しています。

これによると大気中のフロン濃度は、わずかながら減少傾向にあります。電化製品等に使われているフロンガスの回収作業が徐々に普及してきたものと考えられます。

当研究センターが実施したモニタリング調査結果（高松市）



オゾン層破壊により受ける紫外線の影響

- ▶ **人体への直接影響**
皮膚がん・白内障の増加、免疫機能の低下
- ▶ **農作物への被害**
紫外線に対する感受性の高い作物の減収
- ▶ **生態系への影響**
浅海域の動植物プランクトンに悪影響
- ▶ **大気汚染への影響**
光化学オキシダントの上昇

私たちにできること

フロン類の回収に協力しましょう。

- ・フロンを使用した製品を丁寧に取り扱いましょう！
- ・定期点検を行い、フロンの漏洩防止に努めよう！
- ・ノンフロン製品を選ぼう！

日本紅斑熱、身近に！

日本紅斑熱とは、

日本紅斑熱はダニ媒介性疾患の一つであり、リケッチアジャポニカという病原体を保有するダニに刺咬されることによる感染症で、感染症法では四類感染症に分類され、全数把握の対象となっています。

潜伏期は2～8日で、頭痛、倦怠感、悪寒戦慄を伴う急激な発熱、米粒大の皮疹（紅斑）が主な症状として現れます。治療が遅れると生命の危険もありますので、早期診断、早期治療が重要な疾病です。



各種動物における日本紅斑熱抗体保有調査の実施

四国四県の衛生研究所が連携し、ダニを媒介すると思われる動物（ウシ、犬、猫、野生ジカ）の日本紅斑熱に対する抗体保有状況調査を行いました。

このうち飼い犬については、猟犬の22%、その他の犬の37%に40倍以上の抗体保有が見られ、県下全域にわたって日本紅斑熱を起こす病原体の影響をうけていることがわかりました。

香川県での患者発生は、まだ報告されていませんが、県内に生息するダニが日本紅斑熱の病原体を持っている可能性があり、野山や畑に行く場合には、注意する必要があります。



もしかして？
日本紅斑熱

野山や畑に行った後に
高熱 発疹
マダニに刺されてから2～8日して

発疹（紅斑） 刺し口

もしもの時は、すぐに近くの病院で診てもらおう！
「野山や畑に行ったことを先生に伝えましょう」

日本紅斑熱を起こすマダニが、私たちの近くにいます！
四国のイヌ、ネコ、ウシや野生のジカを調査したところ、患者の発生していない地域でも日本紅斑熱の影響を受けていることがわかりました。

マダニに刺されないよう気をつけよう！

いつ頃 一年中 特に夏に多い
対策 服装 肌をださない 野山へ行った後や、農作業後はシャワー

とても大事！
早期受診・早期治療

徳島県保健環境センター 088-625-7751
香川県環境保健研究センター 087-825-0400
愛媛県立衛生環境研究所 089-931-9757
高知県衛生研究所 088-821-4960

各医療機関等に配布された啓発用ポスター

予防及び治療

本症に対するワクチンは製造されておらず、ダニの刺咬を防ぐことが極めて重要です。

- ◆ダニの発生時期（春から夏）及びダニの発生地を知り、立ち入らないこと。
- ◆農作業や森林作業でやむを得ず立ち入る際には、
 - (1) 皮膚の露出を少なくしダニの付着を防ぐ。
 - (2) ダニ忌避剤を使用する。
 - (3) 作業後入浴し、付着したダニを洗い流す。
 - (4) ダニに刺咬されていた場合、皮膚科等を受診し除去してもらう。（ダニは皮膚に深く刺咬しているため、下手に除去すると、病原体が体内に入る恐れがあるため。）
- ◆農作業等の後に、本症を疑う兆候（発熱、発疹、刺し口）がみられた場合は、早期に受診しその旨を告げて治療を受けましょう。
- ◆治療にはテトラサイクリン系抗生物質が有効

小規模事業場等の排水規制が始まります。

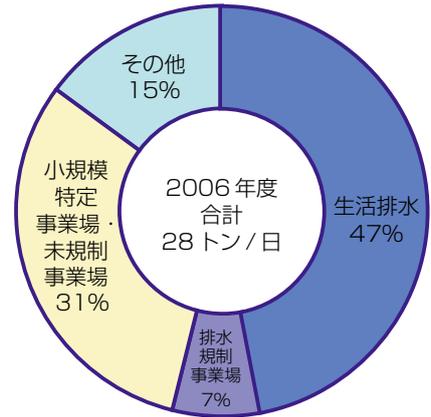
県内の川や海の水質を汚している原因（有機汚濁）の約3割は、規制のかかっていない小規模特定事業場や未規制事業場からの排水であり、これらの排水は県民からの苦情の原因となることも少なくありません。

「香川県生活環境の保全に関する条例」では、小規模特定事業場や条例に規定する施設を有する未規制事業場からの排水について、新たにTOC（全有機炭素）による水質排水基準を設けています。**これにより、規制対象事業場は水質排水基準を超える水を排出してはいけません（平成24年4月1日から適用）。**

当研究センターでは、対象となる事業場の排水中TOC分析を行っています。

【規制対象】

平均排水量が10m³/日以上の小規模特定事業場及び条例に規定する施設を有する未規制事業場



発生源別のCOD汚濁負荷量の割合（香川県）

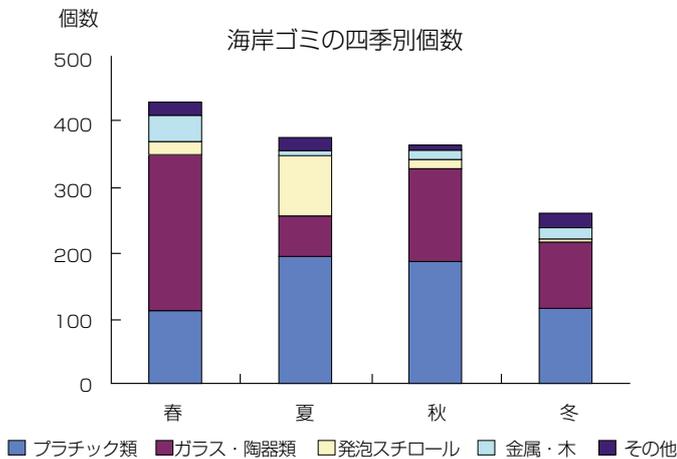
ふるさとの海岸ゴミ

平成20年度に香川県の3海岸（播磨灘、備讃瀬戸、燧灘）で季節別に海岸ゴミを漂着ゴミと放置ゴミに分けて調査しました（個数/100m²）。漂着ゴミのうち、プラスチック類が43%を占めていました。

海岸ゴミの区分法

漂着ゴミ：プラスチック類、発泡スチロール、ゴム、木、紙、布、海外漂着ゴミ

放置ゴミ：金属、ガラス・陶器、複合素材



さぬき市青木海岸 2008年夏

風邪だろう、実は結核かも

結核予防週間9月24日～30日

結核は、過去の病気と思われがちですが、厚生労働省の調査によると昨年は2万4760人が結核の新患者として登録され、2216人の方が結核で死亡しています。

結核は、体力や免疫力の低下により昔感染し、冬眠していた菌が増殖を始め発症する（内因性再燃）ことがあるので、健康管理に十分な配慮が必要です。また、結核薬の効かない多剤耐性菌や超多剤耐性菌の報告も多数報告されています。初期症状は風邪に似ています。咳が二週間以上続いたら受診しましょう。

かがわ環保研だよりVol.14 平成21年9月

編集・発行 香川県環境保健研究センター
〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105
TEL:(087)825-0400 FAX:(087)825-0408

総務企画課	総務担当 企画情報担当	(087)825-0400 (087)825-0415
環境科学部門	水質担当 大気担当 常時監視担当 自然環境担当	(087)825-0401 (087)825-0402 (087)825-0403 (087)825-0401
廃棄物・リサイクル部門	廃棄物担当 資源化・リサイクル担当	(087)825-0405 (087)825-0405
保健科学部門	微生物担当 生活科学担当	(087)825-0411 (087)825-0413

E-mail:kanpokan@pref.kagawa.lg.jp

URL:http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e_center/hoken.htm



環保研だよりは、再生紙を使用しています。